学校番号	1007

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	生活と福祉	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	準教科書「生活と福祉」　（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇『ふだんの くらしの しあわせ』を自分を含めただれもが、あたりまえに生活できることを保障するために、支援する制度や知識・技術を理論と実践で学び、地域で、職業人として必要な資質と能力の習得をめざしましょう。

2　学習の到達目標

〇生活と福祉・看護にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。
【知識及び技術】
・高齢期にいたるまでの健康づくりについてライフステージごとの健康管理について、具体例をとおして理解する。また、福祉に関する法律や制度・サービスについて理解し、予防の考え方に基づいた自立生活支援と介護・看護に関する基礎的知識と技術を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
・生きて活動していける持続可能な自立生活支援と充実した福祉のあり方について、福祉に係るさまざまな方々のニーズを考え、課題解決する力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】
・地域の方々の生活に関心をもち、すべての人が安心して住み続けたれるまちづくり活動に積極的に関わって実践できる態度を身につける。
・福祉に係るさまざまな方々の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人としての資質・能力を育成することをめざす。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	〇ライフステージごとの健康管理について、理解できている。 〇福祉に関する法律や制度・サービスについて理解し、自立生活支援と介護・看護に関する基礎的知識と技術が身についている。	〇高齢期にいたるまでの健康づくりについて、さまざまな視点で考えることができる。 〇看護や介護に関心をもち、課題解決に向けた構想や実践に取り組み、それらを論理的に表現するなどの創意工夫する力が身についている。	〇さまざまな人と主体的に協働して取り組み、地域の方々の生活に関心をもって積極的にかかわろうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	健康と生活・地域共生社会	・ライフステージと健康管理 ・地域共生社会 ・社会福祉制度 ・実習と演習 （介護・看護・生活支援）	a:・各ライフステージの心身の特徴や健康課題とその解決策などについて理解している。 ・社会福祉の基本的な考え方が障がいの有無にかかわらず、すべての人に向けたものであることを理解している。 b:・視覚障がい、麻痺や認知症について症状を理解し、それぞれに必要な注意や配慮を具体的に考え、実践に向けた計画を作成、発表することができる。 c:グループディスカッションやレポートに積極的に参加し、学習内容について把握しようとしている。	・行動観察 ・ワークシート ・レポート ・実習 ・定期考査	・行動観察 ・ワークシート ・レポート ・成果発表 ・実習 ・定期考査	・行動観察 ・レポート ・成果発表 ・自己および相互評価
二学期・三学期	福祉に係るさまざまな方々の自立支援	・人間の尊厳 ・実習と演習 （介護・看護・生活支援）	a:・社会福祉の基本的な考え方が障がいの有無にかかわらず、すべての人に向けたものであることを理解している。 ・体位変換やボディメカニクス、バイタルサインなどの基本を理解し、具体的方法と配慮の技術が身についている。 b:・家庭介護や看護の重要性と課題に対し、どのような対応が効果的かを考察することができる。 ・合理的配慮に基づいたさまざまなレクリエーション活動やその計画を、考えることができる。 c:・さまざまな方々の生活に関心をもち、すべての人が安心して住み続けたれるまちづくり活動に積極的に関わる参加について、考えることができる態度が身についている。	・行動観察 ・ワークシート ・レポート ・実習 ・定期考査	・行動観察 ・ワークシート ・レポート ・成果発表 ・実習 ・定期考査	・行動観察 ・レポート ・成果発表 ・自己および相互評価

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度